自転車安全利用五則　車道が原則、左側を通行、歩道は例外、歩行者を優先。交差点では信号と一時停止を守って、安全確認。夜間はライトを点灯。飲酒運転は禁止。ヘルメットを着用。以上５つの自転車にのる時の重要な交通ルールのこと。

発達ピアサポーター　発達障害のある子どもの養育経験があり、市の養成講座を受けた上でピアサポーターとして登録している支援者のこと。市の事業で活動し、同様の立場や境遇の仲間として、経験の共有やアドバイスを行う。

地域の移動手段確保

移動の権利を守る視点で対策を

若木　早苗（日本共産党立川市議団）



問　移動は市民の権利であり、赤字でも国が責任をもって路線を確保するなどの流れが世界各地で広がっています。国や自治体が移動権や交通権を守る視点で取り組みを進めるべきと考えますが、市長の見解をお示しください。また、まず移動に困難を抱えている方に福祉タクシーを行うとかタクシー券を配布することや、福祉有償運送の事業者を増やして支援することなど、福祉的な視点での対策を考えられないでしょうか。

答　高齢社会において、移動手段をいかに確保するかが重要な問題であり、高齢者が元気に地域の中で暮らしていける社会が理想であると考えます。多様な移動の取り組みを進めるため、各種法令や移動需要の実態を踏まえながら、国と自治体が協力して対策することが重要と考えています。本市では地域内交通導入に向けた取り組みがされており、地域内交通ではフォローできない福祉的視点での課題が見えてきた時点で、対応を検討していきます。

一般質問項目　①物価高騰や資材高騰等から暮らしと営業を守る対策　②市民の移動の権利をまもる地域公共交通と移動手段確保の取り組み　③昭島巨大物流センター・データセンターの影響と対策　④農業振興

自転車利用と駐車場

安全対策と利用者向けの工夫を

瀬　順弘（公明党）



問　柴崎体育館駅周辺など、歩道走行でスピードを出す自転車が多く危険だという声があります。危険な箇所に注意喚起の看板を設置してはどうでしょうか。また、駐車場については、子どもがラックに自転車を上げるのが難しく、平置きスペースも自転車が詰まっていて停めづらい、南口エリアでは、原付バイクを置く場所が無いといった声があります。子ども優先の駐輪スペースの確保や、原付バイクの駐車スペース確保について、何か工夫できませんか。

答　他市では自転車安全利用五則を防護柵等に標示している事例があり、こうした事例を参考に、効果的な現地標示を検討したいと考えています。駐車場について、現時点で子ども専用エリアの設置事例は確認できず、管理員が巡回時に補助するなどの対応をしています。今後、子ども用自転車の利用状況を把握し、指定管理者と情報共有していきます。原付バイクの駐車場拡充は難しく、民間駐車場を含め立川駅南口全体の利用状況を注視していきます。

一般質問項目　①柴崎市民体育館について　②猛暑への対応について　③自転車の利用と駐車場について

重度障害者等就労支援特別事業

積極的に取り組んで導入すべき

福島　正美（公明党）



問　重度障害者が職場において介助員による必要な支援を受けて、就労の継続を可能にする重度障害者等就労支援特別事業が国の事業としてスタートしています。家族介助を前提とせずに、本人の意思と能力に応じて働けることは本当に大切なことですが、現在母親が職場まで付き添い介助しているというご家族の実例があります。今支えなければ就労の継続が困難になる市民への支援については積極的に取り組み、この事業を導入するべきではないでしょうか。

答　障害のある方が社会参加の機会を確保する上で就労は重要であり、就業中の介助等を家族が担っている事例については、その負担を重く受け止めています。就労の有無にかかわらず、まずは障害のある方の生活の基本を支える障害福祉サービスを全ての人に公平に届け続けることが大切であると考えています。導入に当たっては、将来の財政負担を見据えると予算面が大きな判断材料の一つであり、現時点での導入は慎重にならざるを得ないと考えています。

一般質問項目　①重度障害者就労支援特別事業について　②高齢者あんしん見守り支援について　③くるりんバス錦ルートの再編について

地域で担う発達支援

新たな担い手の継続的な養成を

原　ゆき（立憲ネット緑たちかわ）



問　発達特性のある子どもやその家族を地域で支えていくことの意義について、市はどのように認識していますか。発達ピアサポーターの養成講座はサポーターとして活動することを希望する方が対象でしたが、今年度のフォローアップ研修から受講対象者を広げることにした経緯をお聞かせください。発達支援の新たな担い手を育てていくことも重要であると考えますが、市として今後も発達ピアサポーターを継続的に養成していく考えがあるか伺います。

答　専門職等による支援に限らず、周囲が障害の特性等を正しく理解できるよう周知啓発を行い、さまざまな場面でのインクルージョンを進めることが重要と認識しています。令和８年度から発達ピアサポーターの養成講座を修了した方が本格的に活動を開始したため、その役割や発達支援に関する理解を含め、より多くの方に知ってもらえるよう、研修の対象を一般の方にも広げることにしました。新たな発達ピアサポーターの養成は今後も継続していきます。

一般質問項目　①資源循環のまちづくり　②地域で発達支援を担うために　③産後ケアのさらなる充実～必要な人に届く支援へ～

小１の壁と朝の居場所づくり

子どものための有意義な時間を

江口　元気（自民党安進会・維新の会）



問　小1の壁は、小学校進学の際に保育の仕組みや生活時間が大きく変わることで保護者が仕事と子育てを両立することが難しくなる問題です。三鷹市では校庭や体育館を開放し、伸び伸びと過ごせる空間を実現している一方、本市では時間が来るまで空き教室で静かに待つように指導されています。校庭の活用は有効と考えますが、朝の時間を、体を動かし、友達と関わる有意義な時間にどうしたら変えていけるのか、市の現況と見解をお示しください。

答　朝の居場所づくり事業は、今年度から２校で試行的に事業を開始しています。本市では事故防止の観点から、子どもたちが多目的室等の室内で折り紙やおしゃべりなどをして過ごしています。朝の居場所づくり事業は、最終的には市内全校での実施を目指していますが、事業拡大にあたっては、安全かつ持続可能な運営に取り組んでいきます。また、様々な事例を見ながら、本市の独自色や子どものための有意義な時間を研究していきたいと考えています。

一般質問項目　①「小1の壁」と朝の居場所づくり事業について　②陸上競技場について　③AIの活用について

地震災害への備え

感震ブレーカー購入助成検討を

いちのせ　陽子（たちかわ自由民主党 参政党）



問　感震ブレーカーは一定以上の揺れを感知すると自動的に電気を遮断する機能があり、大地震の際の通電火災の防止につながります。近年さまざまな種類が発売されていますが、時間の設定機能があるものや分電盤に設置するタイプは一定の費用もかかります。市民の命と財産を守るため、感震ブレーカーの購入や設置についての助成制度を導入する考えはありますか。全世帯対象が難しければ高齢者世帯等に対象を限定するなど、具体的な検討を求めます。

答　感震ブレーカーについては、今年６月時点で、多摩地区30市町村のうち６市で設置補助を実施、３市で無料配布を実施しています。補助対象とする感震ブレーカーの種類や補助基準額、無料配布する種類や個数は各市異なる状況です。補助制度については、対象を限定した助成も制度設計の一つの考え方であると認識しています。対象の考え方も含め、各市の対応状況を見極めつつ、対象要件や費用対効果等を勘案しながら検討していきます。

一般質問項目　①地震災害への備えと防災・減災対策について　②災害時における避難体制について　③外国人住民の増加に伴う地域課題への対応について